

令和元年度第6回社会教育委員会議抄録

日 時： 令和2年1月16日（木） 15時30分～17時00分

場 所： 西宮市役所東館 8階 教育委員会分室

〔出席委員〕

中 村 哲 哉	根 岸 直 代
三 澤 幹 之	川 本 輝 子
田 中 理	森 郁 子
福 田 洋 子	伊 藤 篤
西 本 望	佐 藤 智 子
立 田 慶 裕	

〔行政出席者〕

重松 教育長	坂田 教育次長
上田 社会教育部長	佐々木 学校教育部長
野田 社会教育部参事	中島 社会教育課長
中尾 放課後事業課長	合田 文化財課長
井上 人権教育推進課長	石井 地域学習推進課長
北 中央図書館長	中西 北口図書館長
牧山 青少年育成課長	坂井 社会教育課係長
石塚 社会教育課主事	木村 社会教育課嘱託職員
村尾 社会教育課嘱託職員	

署名委員

_____ ㊞

_____ ㊞

令和元年度 第6回社会教育委員会議抄録

- 議長 定刻になりましたので、ただ今より令和元年度第6回社会教育委員会議を開会いたします。
- 本日の出席者は11名です。
- 議長 本日の傍聴はありますか。
- 事務局 ごいません。
- 議長 それでは、議事次第に従いまして協議に移ります。
- 議案第1号「答申書の提出」についてです。
- 平成30年7月に「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方」について、教育委員会より諮問を受けました。社会教育法第17条に基づき、当社会教育委員会議では、2年の間、審議を重ね、慎重に検討を行ってまいりました。この度、答申書をまとめましたので、提出いたします。まず、事務局よりお願いいたします。
- 事務局 提出に先立ちまして、委員の皆様には、12月27日付けでお送りしました答申案について、いくつかご意見をいただきましたので、事務局で調整をしております。皆様のお手元には、調整後のものをお配りしております。
- 主な変更点としては、4点ございますので、簡単にお伝えいたします。
- 1点目は、
P. 3の第1章の1「(1) 人口動態」一番下の5行で、ひとり親の動向を追記いたしました。
- 2点目は、
P. 27の第4章の2「(7) 企業・NPO・市民ボランティア等の役割」、について追記されました。「自治会をはじめとした様々な地域団体や市民ボランティアなどの社会的な事業や活動の全てが生涯学習の機会となること」や、「生涯学習を行ううえでは、各施設が『学びの場』として重要な拠点となること」などが書かれています。
- 3点目は、
各章ごとの最後に掲載しておりました「参考文献」を、答申書の最後(P. 30)にまとめて掲載いたしました。
- 4点目は、
「概要版」について、答申書本文に合わせて作成いたしました。
- 議長 それでは、答申書について、簡単に説明をいたします。
- 答申の「概要版」をご覧ください。
- まず、「第1章」の「社会を取り巻く状況の変化」では、少子高齢化によって、地域的分散化や地域で社会教育を支える教育人材の減少、また、科学技術の発展によってもたらされる社会として、Society5.0の実現やAI・ICTの発展が挙げられます。また、多様性とインクルーシブの面では、ユニバーサルデザイン化が進められ、市民と行政との関係においては、行政分野の枠を超えた幅広い連携が求められています。
- 「第2章」の「個人の学びと地域社会の持続的で循環的な発展」では、子供の頃から市民性をはぐくむことの重要性や学習成果の社会への還元、人と人とのつながりでは、本市の社会教育が、教育機関や地域・NPO・企業と連携することの必要性を示しています。
- 生涯学習の地域づくりでは、地域へ社会参加型学習を推進することや、知恵を共有し、支え合い学び合うことで多くの人々が協力して多様な問題を解決する「学習都市」を目指すべきであることを示しています。
- そして、「第3章」の「世代別に見た地域課題解決につながる社会教育のあり方」で

は、子供世代、成人世代、高齢者世代に関して、どのようなしくみや方法が考えられるのかを具体的に提案しています。更に、それぞれの世代が会話や対話を継続していくことによって世代間のつながりを再構築していくことの重要性、世代間のつながりを意図的にしくんでいくコーディネート機能の必要性についても示しています。

その結果、「第4章」では、「子供から高齢者世代まで持続可能で効果的な生涯学習推進」や、「生活と有機的に結びついた学びの展開」、「ネットワーク型の組織構造を組み込んだ行政組織と各地区を単位としたコミュニティ・ガバナンスとを両輪」としながら、全市民が学びを展開できる環境を実現していく必要性を指摘しています。

最後に、「生涯学習推進に関わる施設・組織の取組みと求められる役割」として、学校、大学、公民館、図書館、博物館、その他の社会教育施設の今後に期待される役割を提起するとともに、こうした施設間の連携が生涯学習の推進体制においては求められることも指摘しています。

その結果、「学びの成果が生かされる社会の実現」が重要であり、子供世代から高齢者世代まで、各世代の人々が豊かな人生を送ること・豊かな社会を築くためには、「学校教育・家庭教育・社会教育の更なる充実と緊密かつ有効なネットワークの構築」が必要であり、生涯学習の理念の下に「全庁的な生涯学習の推進体制の構築」に取り組んでいただきたい旨の提言に至りました。

今後の西宮市社会教育行政を進めるにあたり、参考にさせていただければと思います。そして、それぞれが責任を持って優れたパートナーシップを発揮して、本市の生涯学習を担っていただくことが、私たち社会教育委員は期待いたします。よろしく願いいたします。

事務局
議長

それでは、議長より、重松教育長へお渡しをお願いいたします。
(答申の提出)

事務局
教育長

では、教育長よりご挨拶をお願いいたします。
平成30年7月10日に諮問を受けて、「今後の生涯学習の推進と社会教育のあり方」について審議のうえ、答申をいただきありがとうございました。この審議事項については3つの柱があると思います。「人生は100年時代」については、今までですと教育を受けて就職をし、あとは自分を楽しむ人生であったのが、これから、教育はそのままですが、その後、どのような生活をするかということが変わってくるということです。また、今までのように一つの企業にずっと勤めるという状況ではなくなってきております。更に、AI等が入ってきておりますので、なくなる仕事、残る仕事というような問題に対してどう対応するのかということと、社会人として今後どのようにして生活をしていくかということが非常に大きなテーマになっていると思います。このことについても十分に審議していただいたことに感謝しております。「社会に開かれた教育課程」ということで、学校で学んだことが地域又は家庭でしっかりとそのものが生活の中で使えるのかということと、更に自分が学校で学んだことを進化させていくことが必要になってくるかと思っております。10年、20年経てば、今まで習ってきたことがそのまま使えるかということ、使えないという時代になってきていますので、それに対してどう対応するかということです。特にAIについては非常に進歩していますので、今までですと、データを集めてそれを基にしていろいろなことを判断したということでしたが、最近、もう一つ進歩しております。例えば将棋ですと、今までプロの将棋士が指したデータを基にしていろいろなことを考えてやっていたのですが、今回新しく出ているコンピュータは、ソフトはコンピュータ自身で学習していています。たった数時間ほどで分析して、元々のコンピュータより強いというデータが出てきています。OECDの調査によりますと、これから先、50%ほどの仕事が変わるだろうということが言われていましたが、

最終的には10%になるのではとされています。ただ、日本においては、かなり影響を受けるとされていますので、日本の社会のあり方が変わっていかねばならない状況にあると思っています。もう一つは、「社会の持続発展のための学び」ということで、どういうことを更に学んでいけばよいのかということが非常に大事になってきます。今、一番大きく言われているのが子供たちのPISAの調査結果によって、読解力の低下や子供たちのコミュニケーションのとり方の問題など、心を育てるにはどうするかということが言われており、それについても対応していかなければならないと思っています。そういうことも含めて審議していただいた結果がここに出てきていますので、私たちもそれを受けて今後の社会教育のあり方について、全市的に対応していきたいと思っています。本当にありがとうございました。これからも、市としていろいろなことに取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局 本日の答申提出に至るまで、委員の皆様お一人お一人に様々な場面でご協力いただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
今後、答申書をもとに、社会教育・生涯学習の施策の推進に取り組んでまいります。また、後日、ホームページにも掲載させていただきます。
ここで教育長は公務により、退席されます。ありがとうございました。

議長 次に、「その他報告事項」に移ります。(一部非公開)

事務局 先日の月曜日に、令和2年度の成人式を行いましたので報告をいたします。
今回、初めて甲子園球場にて実施いたしました。対象者数5,300名のうち、3,679名の出席があり、昨年度より約1割増えました。甲子園球場になって一番変わった点は、例年は会場の外で式典が始まりまして過ごす新成人が約半分ほどいたのですが、今回はほぼ全員が入場し、中で式典を見てくれました。今回は、甲子園球場らしい演出ということで、阪神の矢野監督からのビデオメッセージや、最後にジェット風船を飛ばすなどを実施しました。想定以上に取材も多く、メディアでも取りあげていただけたと思います。アンケートでも、肯定的な意見が多くありましたので、今後も引き続き開催したいと思っております。

議長 ありがとうございます。雨が降った場合は、どのようにされますか。

事務局 雨でも、1万席以上屋根がありますので、雨でも実施可能です。

議長 ありがとうございます。他にございますか。

では、社会教育委員の皆様は、2月2日で任期の満了を迎えられます。今期の会議は、本日が最後となりますので、委員の皆様から一言ずつご感想などをお願いしたいと思います。

委員 この会議では、自分が学ぶことの多い会議でした。答申書は、きれいに分かりやすくまとめていただいたと思います。理想の老い方がとても大事になってくるとは思いますが、人生の質がこれから大事になるということで、元気な地域が必要だと思っています。身体健康だけでなく心の健康も大事であり、心に余裕を持っているのは元気な地域、それを支えることができるのは市の行政にかかっているかと思うので、それに期待をしたいと思っています。

委員 1年弱でしたが、勉強を改めてすることができました。普段使う言葉もあまりなかったのですが、上手に作成していただいた答申書については、PTA協議会の中で皆さんに伝えられたらと思います。

委員 これまで、スポーツで社会教育にも関わってきましたが、今回は答申書にうまくまとめていただきありがとうございました。人生100年時代という、今後は、健康で元気になるため、スポーツのシステムをつくってきたいと思っています。

- 委員 この答申書の中にも子供に関して、地域課題解決をするにあたっては、「中学校を卒業するまでの間の子供が地域活動に自主的に参加する環境を整える」ということが一番大事だと思っています。子ども会をやっている中で思うことが、子供たちに社会性が欠けていることが多いです。その中で、社会参加をすることで、「社会性を育てる」につきますと思います。遊びや自然体験や生活体験を通じて、集う場をたくさん提供する必要があると思います。子ども会でも何かできることがあれば協力していきたいと思います。
- 委員 今回、西宮市の社会教育・生涯学習の大きな転換点に立ち合えてうれしく思いつつ、研究者としてはとてもやりがいを感じています。社会教育と生涯学習が一体となる再編は、これからが重要な時期であると思っておりますので、できることがあれば関わっていききたいと思います。
- 委員 西宮市で育てていただきましたので、市民としてこの会議に関わらせていただき嬉しく思います。答申書作成において貢献することができ、多くの学びを得ることができました。子ども会の社会活動によって、私たちが支えられていたことがよく分かりました。文教学習都市として判断されたのは間違いではなかったと思います。西宮市がますます発展していければと思います。
- 委員 今回の答申書を拝見し、とても内容がこもっていて学んだことが多かったと思います。宮水学園、子ども会の活動もよく分かりました。答申書の中の「はぐくむ」という言葉が西宮にぴったりだと思いました。コムスク、生涯学習とか、西宮市がこれからどのように発展するか楽しみです。一般的にグローバル化が言われていますが、西宮市としてはどうなるのかなと思います。
- 委員 人生100年時代ということで、今現在の高齢者世代をターゲットにしがちですが、子供時代に地域の人たちになじんで、地域行事にも参加して、成人しても地域に戻ってくるようになるためには、やはり小さい時から社会性をはぐくむことが重要だと再認識しました。私たちの地域では、地域の子供は地域で育てるという気持ちの中で、放課後子供教室や、子供の居場所づくりなど、地域の事業を学校とも共同で実施していますが、今後も工夫していきたいと思います。
- 委員 私は、自分たちのまちを元気にするために「^{まち}地域のがっこう」ということで地域の学校を立ち上げており、その中で60代・70代の方が一番多く、その次に20代・30代の方で、小中学生の年代が2～3人しかいないのですが、その年代をターゲットにして活性化していきたいと思います。
- 委員 答申書をとおして感じるのは、根底にあるのは、「自分とは何か、人間とは何か、というようなことを学校教育の中の学習から世代関係なく、関わることのできる場が広がっていったと思います。この答申を通して、根底である人間とは何かということについて、世代を超えて関わることで自分と周りが見えてくると思います。そういうことに役立ってくれたらと思います。
- 副議長 成人式が甲子園で開催されましたが、西宮市はタイガースが心の支えとなっていると思います。文化といったときに、高知・広島に行くとな人が出て、人材が活用されています。今回の答申では、西宮では人材活用にあまり触れていないと思います。教育のエネルギーは「人」だと考えるので、それを答申書にも加えたかったなと思いました。
- 議長 まずは、答申を無事に提出できましたのは委員の皆様、事務局、また今回の答申書は、全庁的に職員の方々に関わっていただいた印象です。心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。答申書作成には、委員全員で議論したこと、日ごろ教育に関わっている委員の方々の考えていることを、どこまで取り入れることができたかなと思います。次の生涯学習審議会では、もっと委員全員が、日ごろの実践からの知恵が答申書に入っていけるような新しい関係性が出来上がることを期待します。
- 事務局
教育次長 それでは最後に、教育次長よりお願いいたします。
委員の皆様におかれましては、2年にわたり熱心にご審議いただきましたこと、心より

感謝申し上げます。

この間、審議テーマに関し、ヒアリング等の調査研究に取り組んだりしていただきながら、数多くの貴重なご意見をいただき、本日答申書としておまとめ頂きましたこと、改めて御礼申し上げます。

またこの間、阪神南地区、その他研修等にも積極的に参加いただき、昨年度の近畿地区研究大会では、本市の熱心な取組みを各市へ発表していただきました。更に、昨年10月に兵庫県で開催された全国大会では、多くの委員の皆様にご参加や役割を担っていただきました。重ねて深く御礼申し上げます。なお、議長におかれましては、この全国大会の開会式の席上で、これまでの数々の功績に対して、全国社会教育連合会表彰を受賞されました。長きにわたり、本市の社会教育委員としてお務めいただいておりますことは、我々にとっても、大変喜ばしい出来事でした。

先ほど、事務局からご説明申し上げましたとおり、来年度、この社会教育委員会議の位置づけを更に拡げていきたいと考えているところですが、今後とも社会教育全般にわたり、委員の皆さま方からいただきました数々の貴重なご意見を、本市社会教育行政に反映させるよう努めてまいります。2年間、本当にありがとうございました。

それでは、これもちまして社会教育委員会議を終了させていただきます。
ありがとうございました。

議長

以 上